

マナティー



菊池夢美

京都大学野生動物研究センター
一般社団法人 マナティー研究所

マナティーの行動生態

マナティーは体の大きな水生ほ乳類で、海牛類に分類されています。草食性なので、温かい国の浅い水域に暮らしているのが特徴です。マナティーは人魚のモデルとして有名ですが、その生態は謎だらけ。

わたしは、ブラジルやペルーでアマゾンマナティーの行動調査をしたり、カメルーンのアフリカマナティーの鳴き声を調査したりしています。カメルーンでは、外来種の浮草が川や湖を覆ってしまって、マナティーの住む場所を奪っているのが問題です。現地のNGOと一緒に、この浮草対策をすすめています。

いま一番知りたいことは、アフリカマナティーが川や湖のどこを利用しているかです。泥で濁っていて全く見えないので、鳴き声を録音して調べようとしています。

こまごこ

- + 水が濁っていて野生のマナティーを見ることができない
- + マナティーが人間を避けるので、野生個体を観察できない
- + カメルーンが遠い
- + アマゾンも遠い



ジュゴン



市川光太郎

京都大学フィールド科学教育研究センター
一般社団法人 マナティー研究所

ジュゴンの音響生態学

私の研究は、水圏生物音響学です。
音を出す生物が「いつ、どこで、何を、どれくらい」を
解き明かす研究をしています。

ジュゴンの研究では、
動物の体に記録装置をくっつけるバイオリギングと、
記録装置を海に沈めて音を録音する受動的音響観察という
方法をつかっています。

ジュゴンの鳴音・摂餌音・尾びれ音を録音して、
コミュニケーション・摂餌生態・遊泳パターン（休息、突発遊泳など）を
調べています。

ジュゴンが海でどのように暮らしているのか、
音から解き明かしたいと思っています。

こまりごと

- + 野生のジュゴンに近寄るのが難しい
- + 録音したデータの解析に時間がかかる



シャチ



三谷曜子

北海道シャチ研究大学連合

シャチの生態と行動

シャチはハクジラ類の仲間で、白黒の模様と高い背びれが特徴です。背びれの根元にある白い模様(サドルパッチ)や傷、背びれの欠けなどから個体を識別することができます。

世界中の海に暮らすシャチは、今のところ1種とされていますが、食べ物や鳴き声、文化、遺伝子の異なる10の生態型(エコタイプ)に分けられています。

日本では北海道東部の羅臼や釧路で季節的に見られ、クジラやアザラシを食べる哺乳類食性のシャチと、魚を食べる魚食性のシャチがいること、釧路では網にかかったカレイをシャチが食べてしまうことがわかりました。

今いちばん知りたいことは、シャチは北海道に何をしに来るのか、これからもシャチと人が共存するにはどうしたら良いか、です。

こまりごと

+ 研究費が取れない



ヒゲクジラ



中村 玄

東京海洋大学鯨類学研究室

ヒゲクジラの鳴音発生メカニズム

みなさんはクジラの鳴き声を聞いたことがあるでしょうか？
特にザトウクジラは不思議なメロディを歌うので、とても魅力的です。
私たちヒトをはじめ、多くのほ乳類は肺から空気を出して、
喉にある声帯を震わせることで音を出します。

ところが、クジラの喉にはこのような声帯がありません。
クジラが鳴くことは50年近く前から知られていたのですが、
どのようなメカニズムで鳴いているのかは、
まだはっきりとわかっていないのです。

近年、クジラの喉にある袋状の構造物が、
鳴き声を生み出していると考えられるようになりました。
私はその袋状の構造をくわしく調べることで、
クジラが鳴き声を出すメカニズムを解明したいと考えています。

こまりごと

- + クジラはとても大きく、喉の一部ですら100kgを超えるため、
ひっくり返すのすら大仕事です
- + サンプルングは船酔いと戦いです



研究室 HP



夢ナビ



YouTube



著書

